

泉北教組定期大会
同女性部定期大会
6月16日(火)17:30～
和泉コミセン3階ホール

泉北教育

NO.2007 2015.6.1.
発行 泉北教職員組合
〒594-0071 和泉市府中町6-12-2
0725-41-1953 Fax0725-44-6570
E-mail senboku@gf6.so-net.ne.jp



教科書の作成・採択
市民学習会ということで、まずは基本的な「教科書は

今年は中学校教科書採択の年にあたります。泉北教育の前身(2006号)でも紹介したように、安倍政権の「戦争する国づくり」をサポートするかのような教科書(育鵬社・自由社)を採択し、教育で国民の意識を変えようとする動きが強まっています。

高石では、前回の採択の時も、育鵬社・自由社の教科書の採択を求める議会の動きがありました。6月からの教科書展示会を前に、より多くの市民の皆さんに教科書の実態を知っていただくことと、5月30日(土)に高石市のデイズドームで、教科書問題の市民学習会が行われました。子どもと教科書大阪ネット21事務局長の平井美津子先生が具体的な教科書の内容にも触れながら、とてもわかりやすくお話をしてくださいました。

高石市だけでなく、近隣の和泉市・忠岡町から参加してくださった方も多く、約40名がお話を聞きました。

子どもと教育を守る高石市民の会 市民学習会 教科書採択で何がねらわれているのか

どうやって作られるのか? からお話は始まり、二〇一四年に定められた検定の新基準により、教科書会社は「自粛」や「萎縮」の方向に向き、政府見解に沿った内容が増えていることなどが、実際の教科書の記述を元に紹介されました。

次に「教科書はどうやって選ばれるのか?」という内容で教科書採択の流れの話になり、平井先生は中学校の社会の先生でもあるので、実際これまでの経験に

「育鵬社」の実態

次に、問題の「育鵬社」の教科書がどのように生まれてきたのか、内容はどのようなものなのかということとを、記述を具体的に示しながらのお話でした。神話から始まり、随所に問題となる内容がちりばめられていることがよくわかりました。一番印象に残った話は、実際に「育鵬社」の教科書が採択された神奈川県藤沢市の先生の話でした。その先生は公民の授業で、工夫



即したお話も多くしてくださいました。

これからの取り組み
安倍政権が「戦争立法」を強硬に成立させようとしている今、危険な教科書が採択されることは、「戦争する国づくり」に裏付けを与えてしまうことになるのだということを、今回の学習会で再確認しました。

活発な質疑の後、行動提起では、教科書展示会に一

を凝らし憲法の大切さを話したにもかかわらず、憲法についてまとめてくる宿題を出したところ、子どもたちは教科書を元にまとめたきたために、「憲法は押しつけられたものであり、変えていかなければいけないものである」という内容がほとんどだったということでした。教師の言葉は、その場のもので消えてしまいが、教科書は残る。だから、間違った内容の教科書を採択することは恐ろしいことなのだということがよくわかりました。

感想から

人でも多くの人が行って、意見を書いてくるのが呼びかけられました。高石市以外でも、教科書展示会参加の呼びかけと署名活動を強めて、危険な教科書が採択されない市民の運動を作り上げていくことの重要性を痛感しました。

育鵬社版は、あからさまにはなく、よく読まないで、また言葉は悪いですが疑ってかからないと気づかない。しかし、まっ白な子どもたちには、確実に印象づけるよう「上手に」毒が盛られた教科書に仕上がっていると感じ、ますます罪深いと思った。



泉北教組に加入し、子どもたちのための最善の教育条件を確保するために泉北教組はがんばります。